ICHTHY
Natural History of Fishes of Japan
EDITED AND PUBLISHED BY THE KAGOSHIMA UNIVERSITY MUSEUM
ISSN 2435-7715
ORIGINAL RESEARCH ARTICLE
https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/ichthy/articles.html
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ichthy/-char/ja

長崎県初記録のオオクチイケカツオ

中島田正希[1]・和田英敏[2]・本村浩之[3]

Author & Article Info

[1]（福岡市）
ichthyologylab@gmail.com (corresponding author)
[2] 東京大学総合研究博物館（東京）
[3] 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）

Received 19 January 2024
Revised 22 January 2024
Accepted 25 January 2024
Published 26 January 2024
DOI 10.34583/ichthy.40.0_48

Masaki Nakashimada, Hidetoshi Wada and Hiroyuki Motomura. 2024. First records of *Scomberoides commersonnianus* (Carangidae) from Nagasaki Prefecture, southern Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 40: 48–53.

Abstract

A single specimen of *Scomberoides commersonianus* was collected from off Fukue-jima Island, Goto Islands, Nagasaki Prefecture, Kyushu, southern Japan, and a photograph of fresh individual from Taka-shima Island, Nagasaki Prefecture was obtained. In Japanese waters, this species has previously been recorded only from Toyama, Yamaguchi, Miyazaki, Kagoshima, and Okinawa prefectures. Thus, the present specimen and photograph represent the first records of this species from Nagasaki Prefecture. Detailed comparison of the species with a closely related species *S. pelagicus* is made on the basis of Japanese specimens of the former and the original description of the latter.

アジ科イケカツオ属（Carangidae: *Scomberoides* Lacepède, 1801）は，インド・西太平洋からオオクチイケカツオ *S. commersonnianus* Lacepède, 1801，イケカツオ *S. lysan* (Fabricius, 1775)，*S. pelagicus* Abdussamad et al., 2022，アキイロイケカツオ *S. tala* (Cuvier, 1832)，およびミナミイケカツオ *S. tol* (Cuvier, 1832) の 5 種が知られており，そのうち日本からは *S. pelagicus* を除く 4 種が知られている（Smith-Vaniz and Staiger, 1973；本村ほか，1998；瀬能，2013; Abdussamad et al., 2022; Ogata et al., 2023；本村，2023）．このうちオオクチイケカツオはインド・西太平洋の沿岸に生息し，上顎の後端が眼の後縁直下をはるかに越えること，および大きな円形斑が体側に 1 列に並ぶことなどにより *S. pelagicus* を除く同属他種から容易に区別され（Smith-Vaniz and Staiger, 1973；本村ほか，1998；瀬能，2013; Abdussamad et al., 2022），*S. pelagicus* とは体高，背鰭と臀鰭の位置関係，頭部の輪郭，耳石の形態などの特徴によって識別される（Abdussamad et al., 2022）．

オオクチイケカツオは日本国内において報告例の乏しい種であり，1996 年に富山県富山湾より得られた標本に基づき日本から初めて報告されて以降（稲村，1997；魚津水族博物館，1997），現在に至るまで山口県萩市，宮崎県南郷町，鹿児島県南さつま市より各 1 個体，合計 4 個体のみが標本に基づいて報告されており，山口県萩市と沖縄県から写真記録が報告されている（本村ほか，1998；三浦，2012；和田ほか，2019；松沼ほか，2019；園山ほか，2020）．

2018 年 12 月に長崎県松浦市鷹島近海で漁獲されたオオクチイケカツオ 1 個体の写真記録が得られ，2021 年 4 月に同県五島列島福江島近海に設置された定置網において本種 1 個体が採集された．これらの標本と写真は本種の長崎県からの初記録となるため，本種の分布情報の蓄積のため詳細に報告する．

材料と方法

計測・計数方法は概ね Smith-Vaniz and Staiger (1973) と本村ほか（1998）にしたがい，第 1 背鰭基底長（背鰭第 1 棘基底前端から背鰭第 7 棘基底後端まで）と臀鰭遊離棘基底長（臀鰭第 1 棘基底前端から臀鰭第 2 棘基底後端まで）を追加計測した．また，臀鰭前長は吻端から臀鰭第 1 棘基底前端までの距離［本村ほか（1998），松沼ほか（2019），および和田ほか（2019）における臀鰭前長（preanal length）］，および第 3 棘基底前端までの距離の両方を計測した．鰓耙数の計数は痕跡的な鰓耙を含めずに左右で行った．計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位で行った．標準体長は体長または SL，尾叉長は FL と略記した．標本の作成・登録方法は本村（2009）にしたがった．記載は五島列島産の 1 標本（KAUM–I. 156147，698.1 mm SL）に基づく．生鮮時の色彩は固定前に撮影された本標本のカラー写真に基づく（Fig. 1）．本研究に用いた長崎県産のオオクチイケカツオの標本と写真資料はすべて鹿児島大学総合研究博物館

Fig. 1. Fresh specimen of *Scomberoides commersonnianus* from off Fukue-jima Island, Goto Islands, Nagasaki Prefecture, Japan (KAUM–I. 156147, 698.1 mm SL, 734.5 mm FL).

（KAUM）に保管されている．なお，耳石は摘出前に長期間ホルマリン水溶液中で固定されているため，本来の形態が失われているものとみなし形態の記載に用いなかった．KAUM の他に本研究で使用した研究機関略号は FAKU（京都大学魚類標本コレクション）と MUFS（宮崎大学農学部海洋生物環境学科）である．

Scomberoides commersonnianus Lacepède, 1801

オオクチイケカツオ

（Figs. 1, 2; Table 1）

標本　KAUM–I. 156147，698.1 mm SL（734.5 mm FL），2021 年 4 月 4 日，長崎県五島列島福江島近海，定置網，印東商店から中島田正希により購入．

写真資料　KAUM–II. 106，2018 年 12 月 21 日，長崎県松浦市鷹島近海，吾智網，松本　勝撮影．

記載　計数形質および体長に対する各部の割合（%）を Table 1 に示す．

体は前後方向にやや延長する菱形で，強く側扁する．体背縁の輪郭は凹まずに吻端から項部まで強く上昇し，そこから第 2 背鰭起部までの体背縁は緩やかに上昇，第 2 背鰭起部から尾柄までは緩やかに下降する．下顎前端から臀

Fig. 2. Photograph of *Scomberoides commersonnianus* (KAUM–II. 106) off Taka-shima Island, Matsuura City, Nagasaki Prefecture, Japan. Specimen not retained. Photo by M. Matsumoto.

鰭起部までの体腹縁は下降し，そこから尾柄まで上昇する．肛門は第 1 背鰭の第 3–4 棘間の直下に位置する．

口は端位で著しく大きく，主上顎骨後端は眼の後端をはるかに越える．上唇と吻端は皮膜で連結する．上顎歯は小さな円錐歯で，細い歯帯を形成する．下顎歯は小円錐歯が 2 列に並び，内列歯と外列歯は同大．鋤骨，口蓋骨，および舌上に小さな顆粒状の歯からなる歯帯がある．鋤骨歯帯は前後に長い楕円形，口蓋骨歯帯は幅広いハの字型で，後方に向かって細くなる．

鼻孔は 2 対で，前鼻孔と後鼻孔は隣接し吻前端と眼窩前縁のほぼ中間に位置する．前鼻孔は下端が尖るしずく型で，後縁に皮弁をそなえる．後鼻孔は背腹方向に長い楕円形．眼は頭部の前方に位置し，円形でわずかに前後に長い．脂瞼はあまり発達せず，眼の大部分が露出する．鰓条骨は 8 本．痕跡的なものを除き，鰓耙は細長い棒状．

背面を除く頭部，胸鰭より上方の肩帯，および胸鰭腋部を除き，体の全域が皮下に埋没する披針形の鱗で覆われる．体側鱗は重なり合って配列する．側線は完全で，肩帯上部から始まり，わずかに波打ちながら下降し尾鰭基底まで達する．

第 1 背鰭起部は鰓蓋後端よりやや後方に位置する．第 1 背鰭の棘は鰭膜によって互いに連結せず独立し，立てると第 3，第 5，第 7 棘が背面から見て左側に，第 4，第 6 棘が右側に，それぞれわずかに傾く．第 6 棘が最も長い．第 2 背鰭の起部は第 1 背鰭のやや後方に位置し，前部は高い鎌状となり，その後急激に低くなる．第 9–19 軟条間の鰭膜はごく低く，軟条は小離鰭状を呈する．第 1 軟条が最長で，第 1 棘は短い．臀鰭は第 2 背鰭と対置し，起部は第 2 背鰭起部の直下に位置する．臀鰭の形態は第 2 背鰭と同様で，第 1 軟条が最長．第 2 背鰭および臀鰭の最後 2 軟条は鰭膜で互いに連結し，最後軟条の後端は後方に伸長する．臀鰭起部の直前に 2 本の遊離棘があり，第 2 遊離棘は第 1 遊離棘より長い．尾鰭は長く，強く二叉する．胸鰭は鰓蓋後縁直後に位置する．胸鰭の輪郭は短い鎌状で，後端は肛門に達する．胸鰭は第 4 軟条が最長で，第 1–3 軟条は不分枝．腹鰭起部は胸鰭基底の直下に位置する．腹鰭第 5 軟条は鰭膜により全域が腹部と連結する．腹鰭は第 1 軟条が最長で，棘はその 1/2 程度．

色彩　生鮮時（Fig. 1）— 体は全体に金属光沢のある銀色．体側の斑より上の体背面はわずかに濃い銀色で，体背縁は暗灰色．吻は暗灰色で，上顎から眼下部にかけわずかに黄色みがかる．側線の前部はその上下の体側と比べると暗い灰色．体側に 6 個の暗灰色斑が 1 列に並ぶ．暗色斑はいずれも背腹方向にわずかに長い楕円形で，最も前方の暗色斑はほかのものと比べ小さくて淡く，第 1 背鰭起部直下に位置する．前から 2 番目の暗色斑は背鰭第 4 棘直下，3 番目の暗色斑は背鰭第 6 棘直下，4 番目の暗色斑は第 2 背鰭起部直下，5 番目の暗色斑は第 2 背鰭第 6–7 軟条直下，6 番目の暗色斑は第 2 背鰭第 9–10 軟条直下にそれぞれ位置する．6 番目の暗色斑は 1 番目から 5 番目の暗色斑と比べるとごく淡い．1 番目から 3 番目までの暗色斑の下縁は側線に接する．臀鰭第 13 軟条直上から尾鰭基底にかけての体側は黄色みを帯びる．

第 1 背鰭の棘は灰色で，鰭膜は白みをおびた半透明．第 2 背鰭は一様に淡い灰色で，起部から第 7 軟条までは全体的にわずかに濃くなる．臀鰭および臀鰭遊離棘は全体に白色で，臀鰭軟条部の縁辺は半透明になる．ただし，臀鰭第 1 軟条から第 7 軟条にかけてはわずかに灰色みを帯びる．尾鰭は全体に灰色で，後縁は半透明．胸鰭は全体に白色で，胸鰭基底上端から胸鰭上縁にかけてのみ暗灰色を呈する．腹鰭の地色は白色で，第 1 軟条から第 4 軟条にかけての鰭膜の大部分が暗灰色になる．

分布　オオクチイケカツオは，南アフリカから日本，パプアニューギニアとニューカレドニアまでの，紅海とペルシャ湾を含むインド・西太平洋の広域から知られている（Smith-Vaniz and Staiger, 1973；本村ほか，1998；瀬能，2013; Fricke et al., 2024）．日本においては富山県富山湾，山口県日本海側，長崎県鷹島および五島列島福江島，宮崎県日向灘南部，鹿児島県薩摩半島南西部，沖縄島中城湾から知られている（魚津水族博物館，1997；本村ほか，1998；三浦，2012；和田ほか，2019；松沼ほか，2019；園山ほか，2020；伊東，2022；本研究）．

備考　本研究にて記載した 1 標本は，側線鱗数が 227 であること，体がやや伸長し，体高が体長の 31.3% であること，腹鰭と臀鰭の起部がそれぞれ胸鰭と第 2 背鰭の起部直下に位置すること，眼上方の頭部背縁が凹まず滑らかな凸状であること，第 1 鰓弓の鰓耙が細長い棒状であることが Abdussamad et al. (2022) の示した *S. commersonnianus* の特徴をそなえていたため本種に同定された．さらに，記載標本の計数・計測形質は Abdussamad et al. (2022: tables 1, 2) の示した *S. commersonnianus* の値と概ね一致した．

Abdussamad et al. (2022) は本種の臀鰭前長（Snout to Anal fin origin として）を体長の 50–55%（平均 52%）としたが，本標本では吻端から臀鰭第 1 棘と 3 棘基底前端までの距離がそれぞれ 41.1% と 51.3% であった（Table 1）．これまで日本から報告された 4 標本の体長に対する臀鰭前長の値は 41.5–42.7%（本村ほか，1998；和田ほか，2019；松沼ほか，2019；Table 1），松沼ほか（2019）が比較標本として用いたタイ，マレーシア，およびベトナム産の本種の標本の臀鰭前長は体長の 42.9–47.2%（松沼ほか，2019:

Table 1. Counts and measurements of *Scomberoides commersonianus* from Japan.

	This study	Motomura et al. (1998)	Wada et al. (2019)	Matsunuma et al. (2019)
	Nagasaki	Toyama and Miyazaki	Kagoshima	Yamaguchi
	n = 1	*n* = 2	*n* = 1	*n* = 1
Standard length (SL, mm)	698.1	537–677	534.0	401.8
Fork Length (mm)	734.5	568–716	565.0	424.8
Counts				
Dorsal fin rays	VII-I, 20	VII-I, 20	VII-I, 20	VII-I, 20
Anal fin rays	II-I, 18	II-I, 17–18	II-I, 18	II-I, 18
Pectral fin rays	iii + 16	i + 18 (19)	19	i + 17 (18)
Lateral-line scales	227	—	—	—
Gill rakers*	3 + 9 = 12 (L) 2 + 9 = 11 (R)	2–3 + 12 = 14–15	3 + 11 = 14	3 + 10 = 13
Measurements (%SL)				
Body depth	31.3	28.7–29.3	31.7	32.5
Head length	19.8	19.1–19.7	20.7	20.2
Body width	10.3	9.3–10.8	9.6	9.9
Snout length	4.5	4.7–4.8	4.9	5.2
Eye diameter	4.1	3.9–4.1	4.5	4.9
Eyelid inside diameter	3.0	2.1–2.8	3.3	3.5
Interorbital width	5.6	5.8	5.9	6.3
Upper jaw length	12.1	11.5	12.1	12.0
Caudal peduncle depth	4.8	4.6–4.8	5.1	5.2
Caudal peduncle length	9.5	9.2–9.5	10.2	9.8
Predorsal length	30.5	28.8–29.2	31.6	30.4
Preanal length at 1st AS origin**	41.1	41.5–42.3	42.7	41.6
Preanal length at 3rd AS origin**	51.3	—	—	—
Prepelvic length	22.2	21.1–21.8	23.4	23.1
Base length of 1st dorsal fin	18.4	—	—	—
Base length of 2nd dorsal fin	44.7	43.4–43.6	42.7	42.2
Between 1st AS origin and 2nd AS end	2.6	—	—	—
Anal fin base	44.7	42.0–43.2	42.8	43.3
Caudal fin length	17.8	22.0–24.5	25.2	20.4
Pelvic spine length	4.9	4.5–5.0	4.7	5.4
First pelvic ray length	10.3	10.2–10.8	11.3	11.0
Longest pectoral ray length	11.6 (4th)	11.9–12.0 (2nd)	13.2***	13.5*** (right side)
First dorsal spine length	0.7	0.4	0.7	1.0
Second dorsal spine length	1.4	1.3	1.2	1.7
Third dorsal spine length	1.8	1.7–2.1	2.0	2.7
Longest dorsal spine length	3.0 (6th)	3.2–3.4 (7th)	3.1 (7th)	3.8***
Longest dorsal ray length	14.9 (1st)	14.9–15.1 (1st)	16.7 (1st)	15.4***
First anal spine length	3.2	3.1–3.8	3.1	3.6
Second anal spine length	3.2	4.0–4.2	3.9	4.6
Longest anal ray length	15.5 (1st)	14.1–15.2 (1st)	15.7 (1st)	broken

*Except for rudimentary gill rakers; **between of snout to first and third anal spine, respectively; ***longest spines or rays unknown.

table 1）であった．Abdussamad et al. (2022) が計測方法の説明の際に引用した文献からはどのように臀鰭前長が求められたかは明らかでないものの，吻端から臀鰭第 3 棘基底前端までの距離を臀鰭前長として計測しているものと考えられる．なお、Abdussamad et al. (2022) が用いた鰓耙の計数方法も臀鰭前長と同様に明らかでないが，本種の第 1 鰓弓の鰓耙数を 4–5 + 10–11 = 14–16 としている．本研究において観察された発達した鰓耙数は 2–3 + 9 = 11–12，痕跡的なものを含めると 5 + 11–12 = 16–17 となるため，Abdussamad et al. (2022) は痕跡的な鰓耙を含めた値を示している可能性が高い．

2018 年 12 月に長崎県松浦市鷹島に水揚げされた個体の写真（Fig. 2）は，吻端が写っていないものの背鰭の葉状部がほぼ一様に色素に覆われること，上顎後端が眼の後端直下をはるかに越えること，視認しづらいものの体側に大きな円形斑が 1 列に並び，それらは側線に触れる程度であること，腹鰭と臀鰭の起部がそれぞれ胸鰭と第 2 背鰭起部直下にあること，眼上方の頭部背縁が凹まず滑らかな凸状になることが確認されたため，オオクチイケカツオに同定された．

また，これまでに図示された日本産標本［本村ほか，1998: fig. 1 (MUFS 13554)；和田ほか, 2019: figs. 1–2 (KAUM–I. 128805)；松沼ほか，2019: fig. 1a, b (FAKU 1406095)］の形態的特徴を確認した結果，側線鱗数と鰓耙の形態が不明であるものの，概ね Abdussamad et al. (2022) の示した *S. commersonnianus* の特徴をそなえていたため，これらの標本は本研究においても *S. commersonnianus* と同定された．

本研究で記載した標本は，Abdussamad et al. (2022) の示した *S. commersonnianus* の標徴のうち上述の同定の根拠に用いた特徴についてはよく一致した一方で，側線の前部が波状になること，体側の斑紋が垂直方向にやや長い楕円形であることが確認され，彼らの示した *S. pelagicus* の標徴と一致する形態的特徴もそなえることが確認された．さらに，和田ほか（2019）と松沼ほか（2019）が報告した各 1 標本は体側の斑紋のうち前方のものが垂直方向にやや長い楕円形であることが，本村ほか（1998）が報告した 1 標本においてはそれに加えて前方の側線が波打つことが，それぞれの画像と記載文から確認された．Abdussamad et al. (2022) は報告に使用したイケカツオ属魚類の標本をインド沿岸のさまざまな場所で採集, 同定したと述べているため，彼らが示した *S. commersonnianus* の形質と計測値はインド産標本に基づいていると考えられる．そのため，これらの Abdussamad et al. (2022) の示した標徴と本研究で観察された標本の形態的相違は地理的変異を含む種内変異である可能性が考えられるが，詳細な結論を得るにはインド・西太平洋の広域から得られた標本を調査し，形態学的再評価をおこなう必要がある．なお，鱗の配列様式の違いに関しては，Abdussamad et al. (2022) は両種の鱗の配列様式が異なると写真付きで記述したが，具体的な相違を確認することができなかった．

上述の通り本種はこれまで標本に基づき富山県，山口県, 宮崎県, 鹿児島県から知られていたが, 河野ほか（2014）は福井県からも本種を記録している．ただし，彼らの記録は未発表資料が出典に含まれること，引用されているウェブサイトの一部が現在では閲覧できないことから，同定や産地の正確性が十分に検証できないため，本研究では本種の分布域に福井県を含めなかった．

また，三浦（2012）は 2 枚の写真に基づき沖縄県中城湾からオオクチイケカツオを報告した．これらの写真のうち 1 枚（三浦，2012: p. 35，右段最下の図）はアキイロイケカツオであると Ogata et al. (2023) が指摘したが，もう一方の写真（三浦，2012: p. 35，左段下から 2 番目の図）は形態と色彩が Smith-Vaniz and Staiger (1973) および Abdussamad et al. (2022) の示したオオクチイケカツオの標徴と一致し，長崎県松浦市鷹島に水揚げされた個体の写真資料と同様にオオクチイケカツオに同定される．したがって，三浦（2012）により本種は沖縄県からも得られていることが明らかとなった．

分布の項で述べた通り，本種はこれまで国内においては富山県富山湾，山口県日本海側，宮崎県日向灘南部，鹿児島県薩摩半島南西部，沖縄県中城湾からのみ知られていたため，本研究で記載した標本および報告した画像はオオクチイケカツオの長崎県における初記録となる．本種を山口県日本海側から報告した松沼ほか（2019）は，本種の国内における記録は黒潮と対馬暖流の輸送によるものであり，国内で採集された個体がいずれも比較的大型であることから，稚魚期に分散したのではなく成魚が偶発的に輸送されたことを示唆した．長崎県産個体のうち，写真記録の個体（KAUM–II. 106）は正確な体長が不明であるが一見して大型で，標本（KAUM–I. 156147）は体長が 698.1 mm，尾叉長が 734.5 mm と大型の個体であることから，松沼ほか（2019）の見解を支持する結果となった．

謝　辞

本研究を行うにあたり，長崎市の石田拓治氏には標本の採集にご協力いただいた．松本鮮魚店の松本　勝氏および北九州市立自然史・歴史博物館の日比野友亮博士には写真資料をご提供いただいた．鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生およびボランティアの皆様には標本の作成，登録をしていただき，吉田卓史氏には標本の観察をお手伝いいただいた．Ichthy 担当編集委員の吉田朋弘氏と匿名の査読者には原稿に対してご助言をいただいた．以上の方々に心より感謝する．本研究の一部は JSPS 科研費（20H03311・21H03651），文部科学省機能強化費「世界自

然遺産候補地・奄美群島におけるグローカル教育研究拠点形成」, および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業（奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル）の援助を受けた.

引用文献

Abdussamad, E. M., A. Gopalakrishnan, K. G. Mini, S. Sukumaran, P. R. Divya, T. B. Retheesh, A. A. Muhammed, N. V. Dipti, A. R. Akhil, T. Thomas and K. D. Jacob. 2022. Description of a new species of queen fish, *Scomberoides pelagicus* from Indian Seas. Journal of Environmental Biology, 43: 105–114. URL

Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. Van der Laan (eds). 2024. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. URL (10 Jan. 2024)

稲村　修．1997．トピックス：熱帯の魚オオクチイケカツオ・富山湾で捕獲！　魚津水族博物館年報，1996 (7): 71. URL

伊東正英．2022．アジ科, pp. 117–128．岩坪洸樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之（編）薩摩半島沿岸の魚類．一般社団法人鹿児島県水圏生物博物館，枕崎・鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島.

河野光久・三宅博哉・星野　昇・伊藤欣吾・山中智之・甲本亮太・忠鉢孝明・安澤　弥・池田　怜・大慶則之・木下仁徳・児玉晃治・手賀太郎・山崎　淳・森　俊郎・長濱達章・大谷徹也・山田英明・村山達朗・安藤朗彦・甲斐修也・土井啓行・杉山秀樹・飯田新二・船木信一．2014. 日本海産魚類目録．山口県水産研究センター研究報告，11: 1–30. URL

松沼瑞樹・内田喜隆・田代文人．2019．オオクチイケカツオ *Scomberoides commersonnianus*（アジ科）の山口県日本海からの記録および若狭湾とその周辺海域に出現するアジ科魚類目録．魚類学雑誌，doi: 10.11369/jji.19–015 (Sept. 2019), 66: 253−260 (Nov. 2019). URL

三浦信男．2012．美ら海市場図鑑　知念市場の魚たち．ウェーブ企画，与那原．140 pp.

本村浩之．2009．魚類標本の作製と管理マニュアル．鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島．70 pp. URL

本村浩之．2023．日本産魚類全種目録．これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名．Online ver. 23. URL

本村浩之・岩槻幸雄・吉野哲夫・木村清志・稲村　修．1998．オオクチイケカツオ *Scomberoides commersonnianus* の日本からの初記録．魚類学雑誌，45: 101−105. URL

Ogata, Y., H. Wada, M. Wada and A. Murase. 2023. First specimen-based Japanese records of the barred queenfish *Scomberoides tala* (Teleostei: Carangidae) from Miyazaki and Okinawa prefectures, Japan. Species Diversity, 28: 51–57. URL

瀬能　宏．2013．アジ科，pp. 878−899, 1991−1995．中坊徹次（編）．日本産魚類検索．全種の同定．第 3 版．東海大学出版会，秦野.

Smith-Vaniz, W. F. and J. C. Staiger. 1973. Comparative revision of *Scomberoides*, *Oligoplites*, *Parona*, and *Hypacanthus* with comments on the phylogenetic position of *Campogramma* (Picses: Carangidae). Proceedings of the California Academy of Sciences, 4th Series, 39 (13): 185–256.

園山貴之・荻本啓介・堀　成夫・内田喜隆・河野光久．2020．証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録．鹿児島大学総合研究博物館研究報告，11: 1–152. URL

魚津水族博物館．1997．富山湾産魚類リストおよび富山湾産希少魚類の採集記録．魚津水族博物館，魚津．79 + vii pp. URL

和田英敏・伊東正英・本村浩之．2019．薩摩半島南西岸から得られたオオクチイケカツオの日本における 3 個体目の記録およびブリハダムシの新たな宿主事例．Nature of Kagoshima, 45: 323−327. URL